

業績等

◎ 英文原著出版実績（学会・学術協会公式誌のみ、一部）

○ 筆頭著書

- ・Proc Natl Acad Sci USA 米国国立科学アカデミー紀要（2編）
- ・Hepatology 米国肝臓学会公式誌（3編）
- ・J Infect Dis 米国感染症学会公式誌
- ・Virology 世界ウイルス学会公式誌、
- ・Viral Hepatitis and Liver Disease 国際（米国・欧州・日本など）肝臓学会共催会議紀要（2編）、ほか。

○ 共同著書

- ・Science サイエンス（米国科学振興協会）、ほか。

◎ 筆頭原著引用実績

○ 国際シンポジウム選択演題書籍

**Ogata N, Alter HJ \*, Miller RH, Purcell RH.**（\* 2020年ノーベル生理学・医学賞受賞者）

Nucleotide sequence and mutation rate of the H strain of hepatitis C virus. Proc Natl Acad Sci USA 1991; 88: 3392-3396.

（C型肝炎ウイルスゲノムの分子進化：表面蛋白遺伝子の超可変領域は中和活性を回避する危険がある  
＝ C型肝炎ワクチンの設計・作成の困難を予見、2021年現在も引用継続）⇒

・Nishioka K. et al. eds. Viral Hepatitis and Liver Disease. Springer-Verlag, Tokyo, Japan. 1994.

収載論文における総引用件数：世界トップ10。

○ 世界有数の臨床医学誌（The Lancet）

**Ogata N, Cote PJ, Zanetti AR, Miller RH, Shapiro M, Gerin JL, Purcell RH.**

Licensed recombinant hepatitis B vaccines protect chimpanzees against infection with the prototype surface gene mutant of hepatitis B virus. Hepatology 1999; 30: 779-786.

（米国FDA認可B型肝炎ワクチンは中和活性を回避するB型肝炎ウイルス変異株感染をも防御する  
＝ B型肝炎ワクチンの変異対応新規作成・接種の動向に反論、2021年現在も議論継続）⇒

・Zuckerman AJ. Lancet 2000; 355: 1382-1384. ・Purcell RH. Lancet 2000; 356: 769-770.

ザッカーマン博士（WHOウイルス疾患研究主幹）とパーセル博士（NIH肝炎研究所長/共著者）との論戦。

○ 世界定番の教科書・専門書籍（日本での通称・愛称）、自著引用件数

・Sheila Sherlock & James Dooly. eds. Diseases of the Liver and Biliary System. Wiley, New York, USA（シャーロック博士の肝・胆道病学）。C型肝炎関係1篇。

・Arie J. Zuckerman & Howard C. Thomas. eds. Viral Hepatitis. Churchill-Livingstone, London, UK（ザッカーマン博士のウイルス肝炎学）。B型肝炎関係3篇、C型肝炎関係1篇。

・Bernard N. Fields, David M Knipe & Peter M. Howley. eds. Virology. Lippincott-Raven, Philadelphia, USA（フィールズ博士のウイルス学）。B型肝炎関係4篇、C型肝炎関係1篇。

・Stanley A. Plotkin, Walter A. Orenstein & Paul A. Offit. eds. Vaccines. Elsevier,

Amsterdam, Netherland. (プロトキン博士のワクチン学). B型肝炎関係1篇。ほか。

◎ 邦文総説・著書出版実績 (検査診断学関連のみ、一部)

- ・小方則夫、降旗謙一. 腫瘍マーカー:腫瘍関連糖鎖抗原の基礎研究・臨床評価・測定技術と腫瘍関連遺伝子検査の応用. 臨床化学 1998;27(Suppl. 3):11-12.
- ・小方則夫. ウイルス感染症の迅速診断. 総合臨床 2000;49:919-920.
- ・小方則夫. 和漢薬による薬物性肝障害—検査室診断の問題と将来 (薬物代謝酵素 CYP とリンパ球幼弱化試験の問題点). 臨床検査 2002;46:197-200.
- ・小方則夫. 敗血症(定義概念の変遷、自然免疫の役割、サイトカインストームの検査・治療、等の進歩など). 内科 100年のあゆみ(感染症). 日本内科学会雑誌 2002;91:2975-2982.
- ・小方則夫. SIRS・Sepsis と敗血症:定義の意義と今後 (全身状態悪化の早期把握の重要性、新しいマーカー・プロカルシトニンの鋭敏度・特異度など). 心内膜炎と敗血症—今日的視点から. 化学療法の領域 2003;19:941-946.
- ・小方則夫. 症候からみた腹部超音波検査のすすめかた. 「消化器領域における臨床検査」、日康堂、2003, pp 15-28.
- ・小方則夫. 検査の標準化:国際基準共有に向けたB型肝炎ウイルス感染防御最小HBs抗体価標準化の必要性—本邦にて汎用される測定法の特性乖離. 臨床病理 2006;54:960-965.
- ・小方則夫. ウイルス性・細菌性・原虫性食中毒—消化器症状を把握して検査診断を選択する. 「食中毒検査:診療のコツと落とし穴」、中山書店、2006; pp 98-99.
- ・小方則夫. 教科書には載っていない臨床検査Q&A:肝炎ウイルスマーカー検査 (最近の動向とピットフォールについて). 臨床検査 2012;56:1178-1179.
- ・小方則夫. 診療ガイドラインに活用される臨床検査:消化器領域 (ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎、炎症性腸疾患、肝硬変症、胆管炎・胆嚢炎、急性膵炎・慢性膵炎). 臨床検査 2014;58:18-28. ほか。

◎ 研究助成実績

○ 日本学術振興会:基盤研究:

「肝細胞癌におけるセントロメア領域アルファサテライトDNAの構築と機能の変異」(代表)、1998年～2000年、ほか、総額約2,200万円。

- ・20歳代発症肝癌細胞ゲノムを分子クローニングし塩基解析、染色体セントロメア領域に存在する反復塩基配列の断裂を発見し、細胞分裂時の染色体再配分の異常が発癌に関与する可能性を提唱。

○ 厚生労働省:肝炎等克服緊急対策事業研究:

「肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築」(分担)、

(代表:国立感染症研究所:水落利明 博士)、2007～2010年、ほか、総額約5,300万円。

- ・日本で初めて、国産の肝炎ウイルス抗体検査試薬の精度管理における国家検定の不備=WHO基準ではない、ことを指摘、この結果、2013年～標準統一された: → いまだ不十分
- ・日本で初めて、国民全員への肝炎ワクチン接種=WHO勧奨でもある、ユニバーサルワクチネーションを提唱、この結果、2016年～行政実施された: → いまだ不完全

○ 独立行政法人労働者健康安全機構:病院機能向上のための継続特別臨床研究:

「ウイルス肝炎の新規発見・予防戦略・治療論理:肝炎ウイルスに対する抗ウイルス治療は、肝癌発症に対する予防医療である」(代表)、

2005～2018年、ほか、総額約1,100万円、ほか。

◎ 学会表彰実績

○ 日本消化器病学会：

「肝炎ウイルス持続感染に起因する肝硬変症結節と肝細胞癌発症の分子機構の研究」、1986年、ほか。

○ 日本肝臓学会：

「世界初の、慢性ウイルス肝炎に対する経口核酸アナログ(ラミブジン)療法の世界同時進行第Ⅱ相・第Ⅲ相臨床試験の結果、および複製能を高める新しい遺伝子変異の発見」、1998年、ほか。

○ 日本臨床検査医学会：

「抗ウイルス薬抵抗性の、肝炎ウイルス逆転写酵素遺伝子変異検出を目的とした超高感度ペプチド核酸介在PCR法の開発」、2001年、ほか。

◎ 社会活動実績

・日本職業・災害医学会：医療従事者の施設内肝炎ウイルス陽性血液・体液暴露事故対策事業：  
劇症肝炎を引き起こす変異ウイルス感染の実例と対策案についての招聘啓発講演。2009年。

・厚生労働省／新潟県福祉保健部：肝炎総合対策事業：

新潟県県央医療圏：ウイルス肝炎と肝疾患に関する市民講演会と個別相談会。2013年～2019年、毎年実施。